世界に伝えたい私の福島

当協会は、9 月 21 日（金）に県内在住の外国出身者によるフォトコンテスト「世界に伝えたい私の福島」の第一次審査会を開催しました。審査は、カナダ、中国、インドネシア、パラグアイ、ベトナム出身の審査員により行われ、応募総数 180 件の中から約 40 件の第一次審査通過作品が選定されました。5 人の審査員は、時折談笑を交えながらも真剣な表情で作品 1 点 1 点を丁寧に審査していました。

その後、最終審査が審査員長の安田菜津紀氏（フォトジャーナリスト）により行われ、受賞作品が決定しました。

※応募作品の１部

たくさんのご応募ありがとうございました！

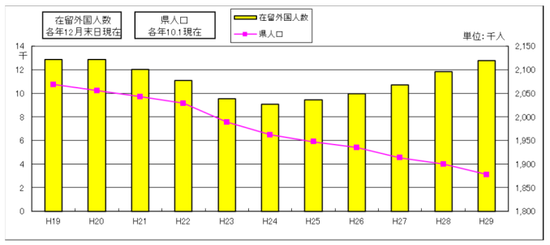
防災訓練に参加しました

9 月 2 日（日）田村市総合運動公園で福島県総合防災訓練が開催されました。当協会ではベトナム出身とアメリカ出身の方々11 名、田村市国際交流協会等のボランティアの方々9 名と参加し、避難所受付簿の記入方法、起震車での地震体験や、炊出しの試食などをしました。また、要配慮者避難所設置訓練では、避難所事務局からのお知らせを英語と中国語、やさしい日本語に翻訳する訓練も行いました。

外国出身の参加者は「母国では防災訓練がないので、いざというときにどう行動すればよいかを知ることができました」と感想を述べていました。

県内在留外国人の推移

福島県が発表した「国際化の現状」によると平成 29 年 12 月末日現在の福島県内の在留外国人数は 12,794 人でした。震災後一時的に減少傾向にありましたが、平成 25 年度からは再度増加に転じ過去 2 番目に多くなりました。国別では、中国、フィリピン、ベトナム、韓国、ネパールの順に割合が多くなっています。



（福島県の国際化の現状より）

多言語による復興情報「ふくしま復興ステーション」

福島県公式復興関連情報ポータルサイト「ふくしま復興ステーション」では、福島県の復興状況の最新データや食の安全・安心に向けた取り組み、福島を応援する方々の活動などを 9 言語（日本語・英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・ポルトガル語）でお知らせしています。
http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/

●FIA Information

外国出身者のための生活相談窓口
当協会では、外国語で外国出身者からの生活相談に応じています。

英語・中国語・日本語
毎週火曜日～土曜日
9：00～17：15

韓国語・タガログ語・ポルトガル語
木曜日 10：00～14：00
※第 4・5 木曜日は事前予約が必要

☎024-524-1316　✉ask@worldvillage.org（相談専用）

● 発 行 者

（公財）福島県国際交流協会
〒960-8103 福島県福島市舟場町 2-1 福島県庁舟場町分館 2 階
TEL 024-524-1315　FAX 024-521-8308
E-mail info@worldvillage.org
URL http://www.worldvillage.org
Facebook　https://www.facebook.com/fiainfo
Twitter　https://twitter.com/fia_info

公益財団法人福島県国際交流協会
Fukushima NOW
おかげさまで 30TH ANNIVERSARY FIA 福島県国際交流協会
Vol.8（2018 年 11 月発行）
30 周年記念号

（公財）福島県国際交流協会では、東日本大震災からの復興に向けた取り組みや国際交流・協力団体の活動、外国出身県民の声など、福島県の「今」を多言語にてお伝えしています。※本紙の翻訳版は、当協会 HP からダウンロードできます。

Voices from Fukushima

今回の Voices from Fukushima は、震災直後に一度ご登場いただいたことのあるメキシコ出身の高橋リリアナさん（相馬市在住）です。

リリアナさんは、ご主人の実家が運営する幼稚園を手伝いながら 2 人の娘さんを育てています。リリアナさんが暮らす原釜地区は、震災による津波で大きな被害を受けました。震災時、リリアナさんはメキシコで予定していた披露宴の準備をしていました。日本にいたご主人と家族、高台にある幼稚園は幸い無事でしたが、自宅や友人知人などの多くを津波で失いました。リリアナさんは震災後 1 ヶ月で再開した幼稚園を手伝うために、2011 年 4 月に来日しました。

震災から 7 年半、改めて当時のことや現在の想いなどをお伺いしました。

-初めて日本を訪れたのはいつですか？

2008 年に夫の案内で初めて遊びに来ました。相馬は素敵な場所で、一瞬で大好きになりました！夫や園児たちと毎日のように海に行き、魚の串焼きを食べたり、わかめを採ったりして楽しみました。

-メキシコで震災のことを知ったそうですが、2011 年 4 月に日本に来るときまでどんな気持ちで過ごしていましたか？

震災直後、幼稚園には避難してきた人が 45 人程いました。町で食べ物も手に入りにくい状況の中、もし自分が行ったらみんなの迷惑になるのではないかと思い、しばらくメキシコに留まっていました。ですが、1ヶ月が経過する頃、現地ではより多くの手伝いが必要となってきたことを知り、日本に行こうと決心しました。それに何よりも、私は日本にいる夫の家族と一緒に居たいと思いました。メキシコには「家族は喜びも悲しみも全て共にするもの」という考え方があります。メキシコの両親は、放射線のことをとても心配し、日本に行くのを反対しましたが、最終的には私の思いを受け入れてくれました。

-震災後の相馬を見てどんなことを感じましたか？

目の前の光景が信じられませんでした。スーパーにパン屋さん、床屋さん…知っている光景がそこにはなくて、とてもショックでした。当時は日本語をほとんど話せませんでしたが、すぐに幼稚園の手伝いに入り、園児たちと遊びました。震災直後の園児たちはショックと緊張のためか表情は暗く、全身をこわばらせていました。それに、遊びで津波の真似ばかりをしていました。普段ならばブロックで家を作ったりするのに、あのときは「津波津波！」と言って暴力的に破壊する行動が多かったのが印象的でした。そのこともあって私は、子どもたちとコミュニケーションを取るためにいろいろな勉強をしました。

-予定していた披露宴が出来なかった代わりに、2011 年 5 月に浜辺で結婚式を挙げたそうですね。周りのみんながとても励まされたと聞きました。

結婚式のことは当日まで知らされていなかったのですごくびっくりしました！夫と友人がサプライズでプレゼントしてくれました。幼稚園でドレスに着替え、瓦礫の残る浜辺で親戚や友人たちに見守られながら式を挙げました。

-この 7 年でリリアナさん自身について変化したと思うところはありますか？

強くなったと思います。前は、他人がどう考えているのかが気になって、自分の考えをあまり表現しませんでした。福島のことも、周りから何かを言われるのが嫌で自分が住んでいるのを隠すときもありました。今は、自分の町への誇りが芽生え「私は福島に住んでいます」と堂々と言うようになりました。

もっと多くの人に福島を知ってもらいたいです。2 日間あれば十分ですので、美味しいラーメンを食べて、温泉に入り、福島の人と会話しに来てください。

-これからの夢はありますか？

日本の子どもは優しくていつも笑顔でとても可愛いですが、メキシコの子どもに比べるとシャイなところがあります。外国の文化に触れる機会が数多くあれば、異なる文化や人々に対してもっとオープンでいられると思います。今はまだ自分の子どもが小さいので取り掛かれませんが、もう少ししたら園児たちに英語やダンスを教えたいと思っています。

英語講師によるボランティア活動

９月８日（土）、南相馬市小高区で外国出身の英語講師の皆さんがボランティア活動を行いました。福島第一原発から 20 ㎞圏内にあるこの地域は、２年前まで避難指示解除準備区域・居住制限区域・帰還困難区域に指定されていました。現在は一部の地域を除いて制限が解除され、住民登録世帯数の 35%が町に戻ってきています。

この日は県内に加え山形県や栃木県から 24 名の英語講師が集まり、竹藪の伐採作業を行いました。このボランティアに毎月参加している男性によると、立ち入り制限されていたこの地域では手つかずの状態の竹藪が多いそうです。成長が早く、強い竹は放置しておくと住宅の壁を突き破ることがあるため、最近では竹藪伐採の依頼が増えているそうです。

自身も双葉町で被災したリーダーのサラ・ジョーンズさんは「ここでのボランティアは 2014 年から毎月１回続けてきました。私は先任のリーダーから仕事を引き継ぎました。一緒に活動してくれる仲間たちには心から感謝しています。みんなが力を合わせれば大きい仕事ができます。復興が実感できるまで今後も活動を継続していくつもりです」と述べました。

チェーンソーで竹を切り倒し、その後、枝を払って５０㎝の長さに切り揃えていきます。

三春町で農業研修

「キュウリ、トマト、メロンを栽培しています。キュウリの葉は触るとかゆい！！」

三春町にある大内ファームでは、これまで約 20 年間、インドネシア、マレーシアなどから毎年海外農業研修生を受け入れてきました。今年は大内ファームにとってはじめてのフィリピンからの研修生となるサガンサング・ファハド・カシムさんが来県しました。ファハドさんは、野菜の栽培方法や農家の経営方法を学ぶため 2018 年４月から来年２月まで福島に滞在しています。

フィリピンでも米や野菜を作っていたファハドさんは「日本とフィリピンの農業では作業の効率が全く違います。フィリピンに帰ったら、自分の農場を経営しつつ、他の農家のコンサルタントもしたいと考えています。ここで学んだことを活かせるようしっかり取り組みたいと思います」と将来の夢を話していました。

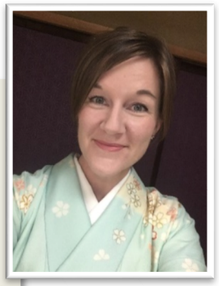
Scenes of Fukushima

わたしの好きなふくしま

当協会では東日本大震災・東京電力福島第一原発事故の直後から広報紙「Gyro（ジャイロ）」の震災復興版として「FukushimaNOW（旧・がんばろう福島）」を多言語にて発行してきました。記念号となる今回は、これまでインタビューにご協力いただいたことのある７名の県内在住外国出身者に「わたしの好きなふくしま」を教えていただきました。

会津に６年以上暮らしています。磐梯山がとても好きで、これまでに４回登りました。頂上からは会津若松、喜多方、猪苗代などが見えます。
ファン・バン・タインさん
（ベトナム出身
・会津若松市在住）

Xin chào！（ベトナム語）



リラックスできる湯本温泉が大好きです。街歩きをしながらカフェや足湯などを楽しめます。ヨガやフラダンスのイベントも開催されるとても楽しい街です。
中田ジェーンさん
（ニュージーランド出身
・いわき市在住）

Hello！（英語）

福島県には豊かな自然と季節の美味しい食べ物があります。猪苗代湖は美しい景色とビーチがあり、ウォータースポーツを楽しむことができます。それと、思いやりのある優しい県民性には強い感動を覚えています。
八巻クロイさん
（イギリス出身・郡山市在住）

Hello！（英語）

いろいろなお店や施設がある郡山市が好きです。郡山ビッグアイのサイエンスパーク、駅前の噴水、大きな図書館やショッピングモールなど見たいところや体験してみたいことがたくさんあります。私は福島県が大好きです。
フランシス・アミモ・オコティさん
（ケニア出身・二本松市在住）

Jumbo（スワヒリ語）
Hello！（英語）

美しい自然と温泉、そして人情味溢れる県民の温かさが大好きです。知らない人同士でも道ですれ違ったら挨拶をしたり、地域住民が親切にしあったりするところが素敵です。
城坂愛さん
（中国出身・須賀川市在住）

你好！（中国語）

福島は、景色が綺麗で食べ物が美味しいです。
白河にはフィリピン出身の友だちに限らず、日本人の友だちも多くいるので、不自由なく暮らしています。白河はとても暮らしやすいところです。
岩澤クリスティーナさん
（フィリピン出身・白河市在住）

Magandang Tanghali！（フィリピノ語）
Hello！（英語）

仕事に子育てに勉強にバンド。気がつくとあっという間に 23 年が過ぎ、福島は僕の故郷になりました。日本語をより理解し話せるようになるにつれ、福島県への興味と愛着がさらに高まり、ここに住む人達が大好きになりました。
真歩仁しょうんさん
（カナダ出身・福島市在住）

Hello！（英語）
Bonjour！（フランス語）